



運動会、より速く、より美しく

暑い夏が過ぎ、やっと、秋の気配を感じさせる季節がやって来たと思いきや、5日(土)は、夏を思わせる陽気で、雲一つない快晴のまさに絶好の運動会日和となりました。久しぶりに、台風や雨の心配を一切せずに運動会を迎えることができました。

そのためか、早朝から、昨年以上のお父さんが手伝いに見えられたので、お父さんには、先ず、園児用の椅子や重い玉入れの道具などの用具を運んでいただきました。その後のテント張りも、大勢のお父さんのご協力があったので、例年よりも早く立ち上げることができました。こうした光景を見ますと、私たち職員だけでは到底できないところを、保護者の皆様にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

今年は、好天に恵まれたこともあって、子どもたちは、ダンスや踊りでは、練習の時よりもより美しく、より格好よくできました。そして、かけっこやリレーの短距離走では、より速く、より上手に走れました。

はやくおむかえ こないかな



小学校低学年でも真っ直ぐ走るのが難しいので、直線のラインを引きますが、本園の年少さんは、直線のラインが引いてないにお父さんやお母さんをめがけて真っ直ぐに走ることができました。お父さんやお母さんの見えないパワーは流石です。親子競技の「はやくおむかえ こないかな」も親子の絆を感じさせる競技で、楽しい内容でした。見つからないように顔を伏せてじっとしている年少さんを、直ぐに見つけられずに右往左往しているお父さん。我が子を見つけたら、電車ごっこで一目散に走る姿が、なんとも微笑ましく映りました。

見事に開いたパラバルーンの花

年中さんの見ものは、演技途中でドーム型や傘型にバルーンが開き、最後に、ポンポンが高く舞い上



がるところです。それには、クラスの皆の心が一つになり、タイミングがうまく合わなければできません。何度も練習を重ねていましたが、最後の場面になると、どうしてもタイミングが合っていなかったようです。

年中さんは、年長が練習で使っていない年長教室で、先生が撮ったビデオを見ながら動きを確かめていました。この学習効果が、功を奏したようです。

本番では、どの場面でもきれいなドームや傘の花が開き、最後には、見事にポンポンが高く舞い上がりました。息が合って、とても綺麗でした。

格好よかった、よさこいソーラン節

園児たちの憧れの踊りが「よさこいソーラン節」です。年長さんはやっと、順番が回ってきたと喜び、練習に余念がありません。先生から指示をされずに、自分たちでCDプレーヤーをかけ、自主的に踊り、手足の曲げ方や声の出し方をチェックし合うのです。そして、年長さんが練習で踊っていると、必ず近くに、年中さんや年少さんの姿があり、見よう見まねで踊っています。中には、「だいぶ踊れるようになったよ」という声も聞かれました。

当日の年長さんは、黒いシャツにきりりと絞めた赤いタスキや鉢巻き姿が凛々しく、いつもとは違った顔つきで、大きな掛け声を出し、見事な演技をしました。私も子どもたちの掛け声に負けまいと、今までになく叩く太鼓に力が入りました。さすが年長さんでした。

